

観光が突出して、生活支援は後景に

1日、臨時市議会が行われ地方自治体に新たに配分された新型コロナウイルス対策の地方創生臨時交付金のうち、年度内に実施する事業が決まりました。

補正予算に盛り込まれた臨時交付金は全体で4・9億円でしたが、しかし・・・。

新型コロナ大流行なのに 観光が最優先!?

カヌーなどの新たな体験観光をする利用者には3千円補助して、事業者にも一件50万円の助成、航空会社と連携した観光キャンペーン、宿泊者に一泊3千円の補助、観光動画の作製などが目白押し。それだけで1・3億円です。しかも感染収束の見通しもないなかでの提案です。実際に事業をすぐ始めるのは難しいのではないのでしょうか？

生活支援、「じゃどうなの?」

一方、コロナで苦しむ市民生活の支援には、子育て世帯臨時給付金の所得制限を超えた世帯への給付と、すでに実施済みの福祉灯油（原油価格高騰対策助成金）の財源補正に使い、予定していた一般財源の多くを基金に積んだだけ。これでは庶民には全く回ってきません。



困っている所に手厚く

もちろん、各施設の感染対策やバス会社の経営支援など、必要な支援も盛り込まれていますが、それとて十分とは言えません。

共産党議員団は、観光の突出に注目を付け、「子育て世帯の給付金なら、最も困っている『基準日以降に離婚』し、子どもを養育している母親に給付金が届いていない家庭への支援を優先すべき」と質問しました。

市は、「国会でも制度変更すると答弁しており、国から指示が来れば適切に対応する」と約束しました。

紙智子さん、松橋ちはるさんの「どうい」開かれる

4日、ZOOMをつかって「共産党つどい」が開かれました。そこでの松橋ちはるはる党道国政相談室長と参加者のやり取りの一部を紹介します。



(問) 野党共闘はこれからどうなりますか。

(松橋) 私は北海道9区の候補者で選挙直前に、立憲の山岡達丸さんに統一候補をゆずりました。山岡さんは前回、希望の党だったこともあり、共産党の

松橋ちはるさんの街頭演説から・・・

私は、2歳の時から母子家庭で育ちました。そのため、苦小牧の高校も、岡山の大学も夜学でした。大学の学費は奨学金が頼りでした。卒業までに有利子の奨学金は6百万円までになりました。大党の皆さんに助けを卒業して16年たちますが、今でも3百万円の返済が残っています。共産党は

給付型の奨学金を増やした。共産党には母の命を助けてもらったよなものです。今度は、私が恩返しする番です。

母親が手の病気になったとき、病院代がなくて病院に行けませんでした。共産党の皆さんに助けてもらい、勤医協の無料・低額診療でやっとな診てもらい、手術もすることが出来ました。



支持者の中には複雑な思いもありました。結果的に見ると、共産党支持者のほとんどが山岡さんに投票、自民の堀井学さんは初めて小選挙区で敗れました。ここに野党共闘の力があります。

今度の参院選北海道選挙区は3人区で、二人が自民党です。今度は二つの議席を野党が占め、そのひとは共産党の私が・・・その思いで必ず勝利します。



(問) 松橋さんが一番訴えたいことは何ですか。

(松橋) 憲法9条です。小さいときに祖父が特攻隊を志願したと聞きました。私は「軍国少年だったから?」と聞くと、祖父は「違う。上の兄はみんな兵隊にとられ、小さな弟・妹の面倒をみなぎやならなかった。自分が特攻に行つて稼ぐしかなかったんだ。」でも祖父は色盲のため兵役検査で不合格。だから私がいまここにいます。戦争が好きで兵士になったわけではなく。そうしないとどうにもならなかった。・・・当時の若者にそんな思いをさせた戦争は、二度としてはいけません。